

審査の結果の要旨

氏名 中島 伸

本論文は、近代街区造成の大部分を担ってきた土地区画整理事業による空間形成の系譜を整理し、その中で戦災復興区画整理による、空間形成の実態と都市計画技術の到達点を明らかにすることを目的としている。特に、戦災復興事業区域の空間形成を、計画策定過程、計画思想としての設計標準、街区設計の実態を現況から明らかにし、その計画の全貌を明らかにすることを目的としている。

論文は研究の目的、構成を述べた序論である第1章につづいて、土地区画整理における空間形成の課題を論じた第1部と東京都における戦災復興土地区画整理事業の実相を明らかにする第2部、そして結論を述べる部分から成っている。

第1部はさらに、土地区画整理事業の史的展開を論じた第2章、戦災復興事業の全国展開を明らかにした第3章、戦災復興事業のこれまでの評価をまとめた第4章から成っている。第2部は、東京都の戦災復興事業の概要をまとめた第5章、その計画思想を分析した第6章、事業計画の分析をおこなった第7章、事業実態及び事業経過を分析した第8章から成っている。

第1部第2章では、土地区画整理における事業・制度の史的変遷を、空間形成技術という観点から概観し、街区設計に着目した空間形成の評価に繋がる課題を考察している。特に本論文の主対象である戦災復興土地区画整理事業の歴史的位置づけを明らかにし、その課題を整理している。

第3章では、戦災復興事業が、単一事業として全国展開した点に着目し、事業の特徴と課題を整理している。特に、中央から地方への情報伝達、技術者の交流等の視点から事業における施設計画や換地設計などの特徴を明らかにしている。

第4章では、戦災復興事業に関する従来の評価を、計画の理想と事業の実現、街路計画の実現、空間の画一化という3つの論点から整理し、戦災復興事業の空間評価方法の確立を試みている。

第2部第5章では、東京都戦災復興計画を整理し、他の計画との関係を考察している。

第6章では、戦災復興土地区画整理事業の計画段階として、当時の計画標準から空間形成方針の特徴を明らかにし、当時に、東京都が独自に検討していた設計標準を分析することによって、当時の東京都の街区設計の計画思想を解明している。

第7章では、新発見の土地区画整理事業の実際の計画書を詳細に分析することによって、

具体的に当時の街区設計の計画実態を明らかにしている。

第 8 章では、実際の事業で実施された成果を具体的に明らかにして、街区造成の実態において、従前の空間やコンテキストの保持の努力や創出した空間構成上の工夫などの細部を詳細に明らかにしている。

全体のまとめにあたる第 9 章では、総合的な考察として、戦前から戦災復興期にかけて街区設計といわれる計画技術が生成し、一定の成果を上げてきたことに代表されるように際だった技術水準を持って達成されたこと、戦災復興事業は、その全国的な展開という特殊な事情が全国普及を促していったこと、しかしそうした空間形成に関してはこれまでまったく評価の視点が欠如していたことが結論として述べられている。

以上、本論文は、戦災復興土地区画整理事業の成果について、新発見の東京都資料を活用して、その実態を詳細に明らかにした上で、街区設計という新しい視点を導入することによって、その評価をおこなうことを明示しているというこれまでにない論点にたった独創性および有用性の高い優れた論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。